



【担当：臨床工学科】

＊ ＊ 心臓カテーテル検査について ＊ ＊

心臓カテーテル検査とは？

心臓病の診断には、胸部 X 線写真・心電図・超音波検査・各医学検査など様々な検査がありますが、これらの検査では不十分な点を補い、今後の治療方針を決定する際、重要な情報を与えてくれる検査方法です。

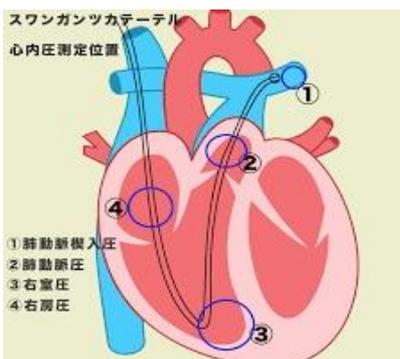
カテーテル検査には大きく分けて、“右心カテーテル検査”と“左心カテーテル検査”があります。

カテーテルとは？

“管”を表すラテン語で、合成樹脂でできた細くて柔らかい医療用の管のことです。管の太さは1～3mm くらいです。

＊右心カテーテル検査＊

静脈（**大腿静脈**（足の付け根）・**内頸静脈**（首）・**正肘静脈**（腕））に**局所麻酔**をし、**静脈血管**に針を刺してそこからカテーテルを挿入し、心臓や心臓付近の圧測定を行ったり、心臓から送り出される血液の量を測定したりします。さらに心筋症のような心臓の筋肉細胞の病気の有無や程度の診断をするために心筋生検（心臓内側の筋肉を採取し顕微鏡で調べる検査）がおこなわれることもあります。



先端にバルーンのついた特殊なカテーテル(スワンガンツカテーテル)を挿入、右心房→右心室→肺動脈まで進めて、各場所の圧力を測定し、心拍拍出量を調べます。

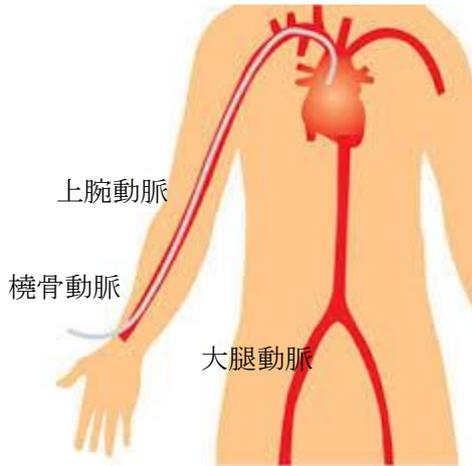
この検査で右心機能を調べることができ、**心不全の診断や治療方針の決定や治療効果の測定**ができます。

左心カテーテル検査

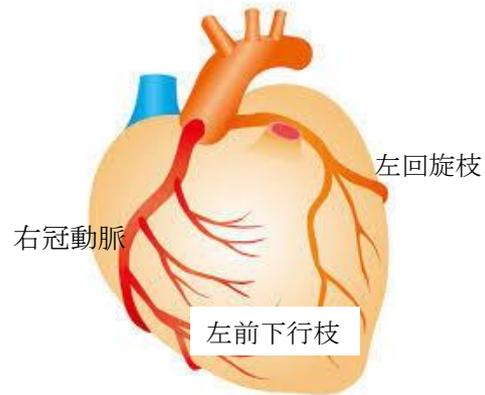
“冠動脈造影検査”と“左室造影検査”の大きく2つに分けられます。

動脈（**大腿動脈**（足の付け根）・**橈骨動脈**（手首）・**上腕動脈**（腕））に**局所麻酔**をし、動脈血管に針を刺してそこからカテーテルを挿入し、大動脈・左心室などの圧測定や造影、冠動脈の造影も行います。

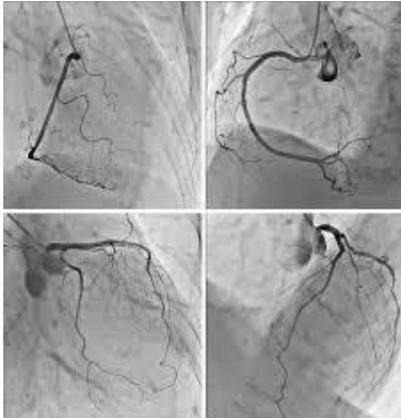
カテーテルの挿入部位



心臓 冠動脈図



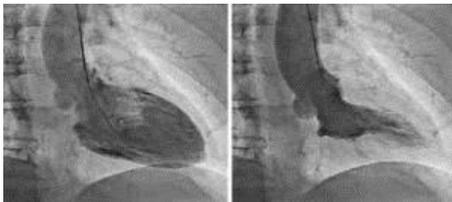
冠動脈造影検査



動脈より挿入したカテーテルの先端を冠動脈の入り口まで進め、造影剤を注入して心臓をリアルタイムに撮影し、冠動脈の性状（血管の流れ：狭窄部位の程度）を調べます。

この検査によって狭心症や心筋梗塞の確定診断をするとともに、治療指針の決定（カテーテルでの治療、外科的治療、内服薬治療といった治療方針を判断する材料）になります。

左室造影検査



動脈から挿入したカテーテルをさらに進めて左室に入れて、左室内の圧力測定と造影剤を注入して X線撮影を行います。

この検査によって心臓の動き、心臓が血液を送り出す能力を評価することができ、さらに僧房弁や大動脈弁の心臓の弁疾患の診断をおこなうことができます。左室造影は、全体的な心疾患を診断するのに有効な検査です。

***取り上げて欲しい病気や検査、質問等がありましたら、投書箱やよろず相談窓口までお気軽に声をかけてください。企画の参考にさせていただきます。【監修：ふれあい編集部】**